



2019年6月1日 ~ 2019年6月7日

2019年6月11日

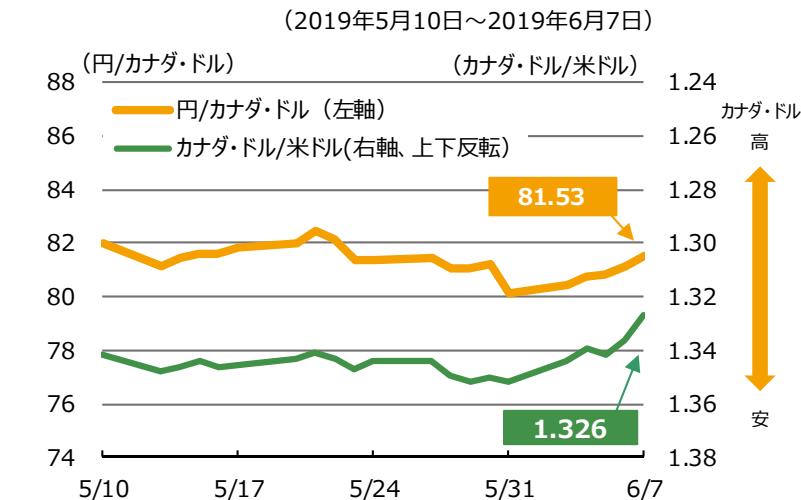
### 先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りは低下しました。

パウエルFRB（米国連邦準備制度理事会）議長の発言や米国の軟調な雇用統計の結果を受けて、米国の利下げ観測が市場で強まったため米ドルが売られました。そのため、対米ドルでのカナダ・ドル高の進行を背景に、カナダ・ドルは対円で上昇しています。カナダ金利に関しては米国金利の低下に連れて、低下しました。

経済指標では雇用統計が発表になっており、雇用者数の増減、失業率ともに市場予想よりも強い結果となり、カナダ資産にとってプラスの材料となりました。失業率に関しては1976年以降で最も低い数値となっています。

### カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

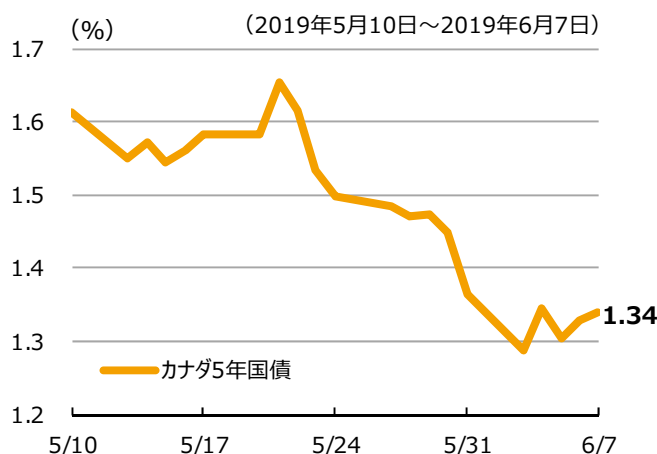
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 今週の見通し

今週、カナダでは住宅関連の指標が複数発表される予定になっています。米国ではCPI（消費者物価指数）、小売売上高の発表が予定されており、市場で強まっている米国の利下げ観測に影響を与えるため結果に注目が集まります。

足元では米国の利下げ観測の強まりを背景に株高が進行しており、投資家のリスク選好姿勢が強まっています。また、米国がメキシコに対する追加関税導入を無期限停止したことから、貿易戦争懸念が後退しているため、カナダ・ドルの上昇圧力につながる事が期待されます。

### カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。